

第34回 全国育樹祭 併催行事



バイオマス対応型フォワーダ

2010 森林・林業・環境機械展示実演会

全国育樹祭の併催行事「2010森林・林業・環境機械展示実演会」が、10月3、4日の両日、群馬県高崎市の森永製菓(株)高崎新工場用地で開催されました。

この行事は、社団法人林業機械化協会が「機械と森林と人との調和」をメインテーマに、林業機械等の性能紹介や安全使用、普及の促進を目的として、育樹祭開催県と共催しています。

今回は、林業機械メーカー等55社が参加し、最新の高性能林業機械をはじめ、チェンソーや刈払い機などの手持ち機械、防護衣、安全用品なども展示されました。

本展示会には、例年、森林・林業関係者から高い関心が寄せられています。今年も特に10年ぶりの東日本での開催とあつて、来場者は当初予想の2倍以上となる12500人と、過去最多となりました。

開会式では、遠山群馬県西部県民局長(知事代理)と及川林業機械化協会副会長、林野庁から中村森林保護対策室長が挨拶し、本展示会の意義や期待を述べました。

我が国の森林資源は人工林を中心に利用期に達しています。また、地球温暖化防止対策の観点から、再生可能な森林資源をマテリアルやエネルギーとして利用するなど、木材利用の拡大に対する期待も高まっています。

こうしたことから、粉碎機などの木質バイオマスの利用促進のための機械も数多く展示されました。本展示会では、屋外で丸太等を使って現場さながらの実演を行うのが大きな特徴ですが、様々な機械やチェンソーの操作性や機能性を見ようと、実演ブースには人だかりができるほどの盛況ぶりでした。

数多くの展示機種の中には、林

野庁の事業で開発したチップパーキングプロセスや末木・枝条を効率よく運搬するためのバイオマス対応型フォワーダなどのバイオマス利用促進のための機械、作業道を単独で作設することを目的とした伐倒機構付きバックホウ、8輪のホイールタイプの高速フォワーダ、さらにはポット苗を機械で植え付けるアタッチメント等も展示されました。

また、今後、国内導入が予定されている海外製のハーベスタなどには、大きな注目が集まっています。



熱心に機械の説明を聞く来場者の姿が
各展示ブースで見られた



今夏、発売されたばかりの
新型フォワーダ



国内での初導入を控えた、
フィンランド製のハーベスタ



高速8輪フォワーダ



4脚クローラ不整地掘削機



チェーンソーの実演